

「縄文のうた」の詩

今井 千津(岡谷市)

ここが好き 1人になれる
いじわるされて 川の音
あふれるなみだ 風の声
足元に光った 黒い石
その時からの 宝物

ぼくの住む この町は
この道と この丘を
きっと 走った人がいる
この石を 矢につけて
放った人が ここにいた

三度目の矢に もらった命
今日の ぼくらの かてとなる

その夜 仮面の祭りごと
光が流れ 伝えられ
新たな命に よみがえる

心に映る 赤い水
こよい はじめて 口にする

大きく輝く あの光
向こう山から やってくる

空に輝く 光たち
あの山 こえて 行く先は
どんな風が 吹くだろう

旅立ちの時 あの先へ
求められし 矢じりと共に
伝えられし 祭と 共に
木々をゆらす 風と共に

明日の自分を 信じて